

「読売歌壇」

理想のみ求めて生きしわれ哀れ愚に生きる幸もありしを

日立市 後藤登美子
二〇〇二年二月十七日

ほの温く自販機の吐きし銭を握り氷雨ひさめの駅に鈍行を待つ

茅ヶ崎市 長田正一
二〇〇二年一月十三日

吾れよりも幸多しと思われぬ易者の前に手をさしのべぬ

東京都 行方 昇
一九九九年十一月七日

「読売俳壇」

テロの眼や利益ゲゼルシャフト社会の虫の闇

花巻市 照井 勝浩
二〇〇一年十月二十一日

「朝日川柳」

戦争の定義を変えたテロリズム
背を押され急ぎ日の丸見せる案
微笑みの浮かぶ紙面が遠くなり

福岡市 奥西 邦夫
生駒市 玉島 英二
赤穂市 大黒 政子

「朝日歌壇」

「ナヌムの家」元慰安婦は別れ際長生きしてねとわが肩
抱きぬ

京都市 大沢 ミヨ

二〇〇二年二月四日

幾度も請わるる募金に戸惑えば『テロ支持者』と揶揄飛
び来るも

アメリカ 吉富 憲治

二〇〇一年十一月十一日

アフガンの難民のアメリカの空母のこと遠ければ批評の
ごときを弄す

大館市 小林 治夫

二〇〇一年十月二十二日

自爆テロ憎み恐るる今日なれど人間魚雷思えば涙

こんなにも静かに咲いて平安な白百合白菊。青空を見る

東京都 牟田 忠彦

アメリカ ソーラー 泰子

二〇〇一年十月二十二日
「何も無い夏だった」と書く子の日記でもきみの背は二
センチ伸びた

二〇〇一年十月四日

龍野市 白石 道子
二〇〇一年十月一日

国守る使者の過半が飢餓死ともレイテに果てし学友の影

武蔵野市 雨宮 孝
二〇〇二年六月十日

船と共に数百人の慰安婦が沈みし南シナ海今も夢見る

山梨県 笠井 常資
二〇〇二年六月十日

一斉にプリントめくる生徒たちさわさわわわと若葉の音
す

香川県 山地 千晶

二〇〇二年六月十日